



「心の節目」となりますように

校長 橋元 忠史

本年度の前期が終了しました。夏休みや教育実習を間に挟み、授業日は101日。子どもたちは日々、たしかに成長を続けていました。ここでいう成長とは、何かが出来るとか、頑張ったことの成果が形に表れるとか、そういうことではありません。学校に来て、色々な人と時間を共有したり、触れ合ったりする。その中で、喜んだり、悲しんだり、怒ったり、嘆いたり、はしゃいだり、悩んだりする感情の揺れ動きを繰り返す。そして、脳をはじめとした四肢丸ごとで人として生きていく意味を実感しつつ刻み込んでいくという営みのことです。

そのためには、私たち大人が日々の流れていく時間の中で、何が価値ある学びなのかを見取った上で信じ、励まし続けることが大切になると考えます。

前期・後期のように区切りを設けることは、そのためにとても貴重な機会となるでしょう。子どもたちはもちろんですが、教師は教師として、家族は家族としてそれぞれに振り返ることができればと思います。

ちなみに、区切りのことを節目とも言います。節目が増えることでしなやかで折れない強さが増していく植物に「竹」があります。竹よりも遙かに太い幹の大木や堅いセメントで作られた電柱が、嵐で倒されたとしても、その隣で高く伸びた竹は折れることなく生き続けそのうち、しなやかにもとに戻るといふ姿が報道され、心打たれたことがあります。

我々人間も竹のように生きられないか。そう願わずにはられません。そのヒントになるのが前述の「節目」ではないかと。まずは、終業式のような区切りを自分の生き様を価値付け・意味付けする機会として生かす機会にすること。さらに加えると、日々の営みの中に「心の節目」を設けるということ。

たとえば、失敗してもあきらめない心、思い通りにいかなくてもイライラしない心、何度でも挑戦する心、勇気を出して一歩前へ進む心。そう考えると、どんな出来事や出会いが自分を強くする「心の節目」になるか、分かってくる気がするのは私だけでしょうか。

お願いです。子どもたちの成長するチャンスとなる節目を確保してください。しなやかな強さとたくましい美しさを身に付けようとしている子どもたちをそっと優しく後押ししてください。

子どもたちにとって、また私たちにとって、素敵な秋休みとなり、後期に向けたよき節目となりますように。

【10月の主な行事】

1日(日) 秋季休業(～9日)	17日(火) 大運動会予行
10日(火) 後期始業式	18日(水) 大運動会予行予備日
大運動会係間連携	20日(金) 大運動会準備
11日(水) 学年・学級PTA(高)	21日(土) 大運動会
12日(木) 学年・学級PTA(中)	22日(日) 大運動会予備日
13日(金) 学年・学級PTA(低)	23日(月) 大運動会振替休日
16日(月) 冬服更衣準備期間(～11月13日)	28日(金) 不審者対応対策訓練

～美しさのあらわれる教育活動の推進～

● 美しさの広がり～低学年や中学年へ～

これまで、ふぞくの風にてお伝えしてきた、美しさのあらわれている姿。委員会の子どもが朝のランニングを呼び掛けたり、ちょボラに取り組んだりといった高学年の姿を多く取り上げてきました。最近では、学校内外の多くの場所でも見られるようになってきました。朝、校舎内を歩いていると、ぞうきんを手に取り、階段を磨く3年生の姿が見られます。頑張る子どもたちにインタビューしてみると以下のような言葉で答えてくれました。

廊下や階段がきれいになると、通る人が気持ちよく歩くことができます。ぼくたちも、6年生とは場所が違うけれど、誰かの為にがんばるカッコいい姿を見せたいです。(3年生男子)

また、市電の中でも、美しさが広がっているようです。先日、市電を利用している方からこのような電話を頂きました。

附属小の1年生が、ヘルプカードを付けた私に気付き、友達と声を掛け合い、席をゆずってくれました。とてもうれしい気持ちになり御電話しました。(※一部抜粋)

どちらの姿も、低学年や中学年の姿です。このように、4月から高学年を中心に周りの人のために取り組んできた美しい行動が、それを見た、他学年にも広がっていると言えます。また、行動する範囲が、学校内にとどまることなく、家庭や地域へと広がっているようです。後期は、更に多くの美しい姿が、多くの場所へと広がっていくことでしょう。

● 夢や目標に向かって挑戦！～第1・2免許教育実習・純心大学教育実習～

8月25日から9月22日に今年度の教育実習が行われました。一か月間の教育実習の中で、教育実習生が子どもたちと真剣に向き合って生活指導を行う姿や授業に向けて熱心に教材研究を行う姿、緊張しながらも準備した教材や教具を用い、張り切って授業を行う姿が見られました。実習生の感想の一部を紹介します。

実習の初めは、「無事授業ができるのか。」と常に自分にベクトルが向いた状態からのスタートでした。しかし、ここで出会った「考え続けようとする子どもの姿」や「子どものために全力で向き合う全ての先生方の姿」を見て、「何の為に今学んでいるのか。」ということを考えさせられました。

子どものために準備したことや時間を注いだことが、「わかった。」という笑顔で返ってくる時の喜びと共に、その責任を実感しながら、教職に対する熱をより一層、高めることができました。(※一部抜粋)



【子どもとの別れを惜しむ教育実習生の姿】

教育実習の最終日には、各学級でお別れ会が行われ、子どもたちと教育実習生が、互いに別れを惜しみ、涙を流す場面がありました。上記の感想のように、実習を終えた教育実習生から「教師になりたいという思いがより強くなった。」と話を聞くことができました。今回の実習を糧に、教師という夢や目標に向かって挑戦してほしいと考えます。

● 担任が変わります

前期をもって2年は組担任の辻美咲教諭が産前産後、育児休暇に入ります。また、後期から、2年は組担任には、渡邊健二教諭が入ります。